

# 東海学院大学・東海学院大学短期大学部公開講座 2016

## 「今を生きる知性 ～身近な大学～」

第5回 12/2 (金) 13:30～15:00 報告

石仏考 (行)

講師 浅野秀男 (本学講師)

於：図書館大セミナー室

\*◆◆◆\*◆◆◆◆\*◆◆◆◆\*◆◆◆◆\*◆◆◆◆\*◆◆◆◆\*◆◆◆◆\*

平成28年度第5回公開講座(受講者30名)が12月2日に開催されました。短期大学部幼児教育学科講師の浅野秀男先生による「石仏考(行)」と題された講演は、昨年度の「お地蔵さんの魅力」の第2弾として、石仏研究の更なる深化を探求した講演でした。その一部を紹介したいと思います。

まず、日本仏教についての紹介がありました。日本に仏教が伝来した飛鳥時代に遡り、13宗派といわれる法相宗、華嚴宗、天台宗、真言宗、浄土宗、浄土真宗などの説明から始まりました。続いて仏像の基礎知識について概説されました。仏像の基本となる釈迦如来像は、仏教を切り開いたお釈迦様を崇拝する人々によって生まれたものであること、お釈迦様があまりにも偉大な人であったため、その像が作られ始めたのは、お釈迦様の死後約500年後の紀元1世紀になってからのことなどをお話されました。当時の人々は、石仏の元祖ともいふべき、お釈迦様の「仏足石」や誕生のシンボルである「ハスの花」を崇めていたそうです。仏像の世界は4ステージで構成されていて、それぞれ役割によって、如来・菩薩・明王・天に分けられていることが説明されました。

そして話はよいよ本論の石仏考(行)へと進みます。浅野先生が自ら歩いて鑑賞した石仏は、3年間で500ヶ所以上とのことでした。収集した資料には、膨大な数の石仏が画像として収められていました。その中から金色堂で有名な中尊寺に点在する石仏を始め、石位寺の薬師三尊像、万治の石仏などが紹介されました。万治の石仏は岡本太郎氏や新田次郎氏が絶賛したことでも有名となりました。

最後に地元の岐阜県にある長良の六本松墓地六地藏、富加の庚申院地藏菩薩、岐阜市西光寺の薬師如来、美並村の地藏菩薩、西国三十三ヶ所観音などが紹介されました。いずれも自然の力によって磨かれた味わい深い石仏でした。木彫仏や金銅仏が堂の中に安置されているのに対して、石仏のほとんどは野仏として風雨にさらされています。風化により形がくずれても、庶民の信仰を伝えた野仏の素朴さ、純粹さに心を打たれます。私たちの祖先が、祈りをこめて造立し、私たちに残してくれた貴重な文化遺産に手を合わせ、感謝し上げたい気持ちになりました。

【講座の様子】

